

令和6年度 第3回 浜松中部学園運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年11月26日（火） 14時15分から15時30分まで
- 2 開催場所 浜松中部学園 会議室
- 3 出席委員 齋藤 正、村井 秀行、藤野 直也、神村 佳宏、鈴木 康子、成瀬 仁代
大石 将和、鳥居 浩幸、広瀬 恵子、三ツ井 りか
- 4 欠席委員 三浦 一哲、木村 勝
- 5 学校支援コーディネーター 櫻井 康人
- 6 学 校 岡本 雅康（校長）、星宮 ちさと（教頭）、袴田 暁広（教頭）
影山 直巳（主幹教諭）、井ノ口さおり（教務主任）
井上 佐矢子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 井上 佐矢子
- 9 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、村井委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
(1) 学校評価アンケートの項目について
(2) 来年度の学校運営について
- 11 会議記録
司会から、委員総数12人のうち10人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校評価アンケートの項目について
議長の指示により、主幹教諭から、別紙資料に基づき学校評価アンケートの項目について説明があり、委員からは、以下の発言があった。
あいさつについて
・指導して頂いていると思う。中部学園の上着を着用している時や行事の時はあいさつしてくれるが、上着を脱いでいると、知らない人という認識があるのか、してくれない子もいる。
(村井委員)
・知らない人にあいさつするのは恥ずかしい子もいるかもしれない。中には“ボランティアの人にあいさつできたよ！”と言ってきてくれる子もいるので、できる子はできているかなと思う。
あいさつするとお互い気持ちがいいねということを指導している。（影山主幹教諭）
・交通安全の際にあいさつをしてくれて、さわやかな気持ちになる。（藤野委員）
設問の内容について
・曖昧な設問があり、何と答えて良いのかわからないところもあると思うので、言い換えてもよいのでは。（村井委員）
・“解決する”という言葉は、基礎期の子には難しいのではないか。相談できる先生や仲間がいる

のかが大切。“相談できる人がいる”の方がよいのでは。(広瀬委員)

- ・ 解決することができていなくても、相談できる仲間がいればよいのではないか。(村井委員)
- ・ 解決策がなく、困っている時に相談できる人がいると安心する。(齋藤委員)
- ・ 自分の将来を決めるためにも、こうなりたいという夢や目標を持つことが大切。(藤野委員)
- ・ 親としては、相談した時の先生の対応が気になるところ。(鳥居委員)

(2) 来年度の学校運営について

- ・ 部活動の在り方が気になる。地域として何か協力できることはないか。(齋藤委員)
- ・ 有償かどうかははっきりしないと先方に要請できないのではないか。(成瀬委員)
- ・ 概要がわからないとよい方がいても伝えられない。(齋藤委員)
- ・ チャレンジ学習についてはどのように映っているか。(鳥居委員)
- ・ 保護者の中ではあまり良い声は聞いていない。自分で選択できて良いと思うが、宿題が無くなったからやらなくてよいと捉えている子もいる。学校から指導やフォローが必要ではないかという意見もある。(広瀬委員)
- ・ チャレンジ学習は子供たちの学習意欲が高まり、自分に合った内容・形で取り組めるように考えた。その目的を理解していただく中で、取り組み例の紹介や取り組み状況などを三者面談等で話題にしていきたい。(岡本校長)
- ・ 自分で取り組める子にとってはよいが、違う子もいる。(広瀬委員)
- ・ 基礎期の児童については難しい。成長に応じた教育が必要かもしれない。チャレンジする精神が必要でもあるが、成長に合わせてということが大切かも。(齋藤委員)
- ・ 本来は、こどもの教育の原点は親。学校の授業をきちんと受けていれば学習が身につくはず。チャレンジ学習はプラスαの取り組み。こどもの興味関心について合わせていくのかは家庭の協力も必要。(藤野委員)
- ・ 取り組み自体はとてもよいこと。うまくいくように学校と連携して進めていきたい。(鳥居委員)

櫻井委員から、夢に向かって取り組んでいる先輩を紹介。鳥居会長と共に賞状を部活ごとに展示するように調整中との報告があった。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和7年2月10日(月)午後2時から会議室で開催される旨の報告があった。